

長泉麗峰山の会・山行報告書	文・斎藤　写真・後藤
山行番. NO. 2107	
日 時 2026年01月31日(土) 晴・微風	
山 域 富士山・小富士(1979m)	
コース 長泉7:00-須走「道の駅」-周遊道ゲート8:31-グランドキャニオン入り口9:13-小富士基部10:27-三角点11:12-小富士(昼食)11:35~54-ゲート13:29-長泉	
標高差 ゲート約1180m~小富士約1979m=約800m	
難易度 非常に困難 困難 やや困難 レ普通 やや易しい 易しい	
<b>無風快晴、誰もいない静かな東富士</b>	
参加者 後藤、斎藤、村山俊一(静岡安倍っ子山の会)=3名	

### ゲートは昨年より上だった

長泉発7:00。道の駅「すばしり」で安倍っ子のM氏と合流。周遊道は道の駅近くで仮ゲートがあつたが、木製車止めを動かして突破。キレイな雪道をゆっくり進むと、本来のゲートが見えてきた。昨年は多雪で車は標高1100mまでだったが、今回は少雪で本来のゲートの標高1180mまで入れた。

誰も歩いていない、道路に積もる雪はパウダースノー！サラサラで心地よい。別名、アスピリンスノーともいうらしい。



ゲート

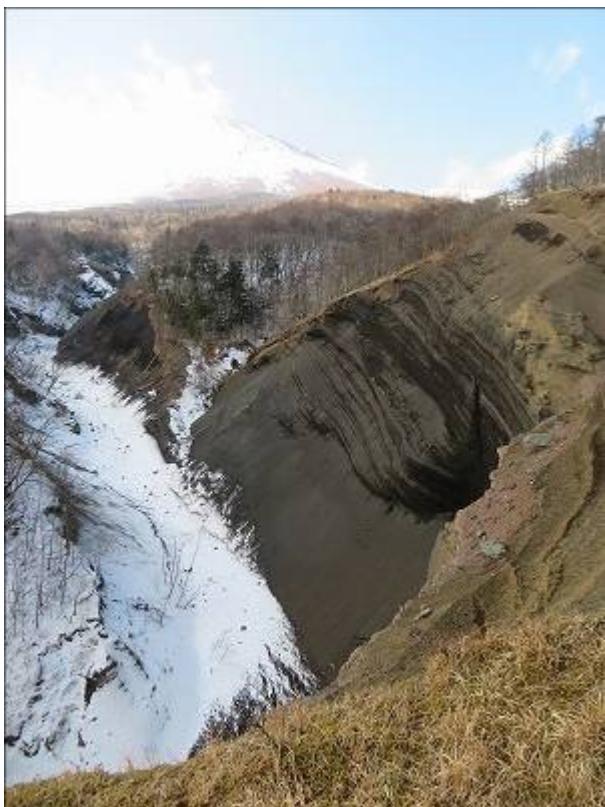


グランドキャニオン左岸

### グランドキャニオン左岸を上る

小一時間で堰堤だらけのグランドキャニオン(沢)入り口に着く。ここから樹林帯に入り、グラキャ左岸を上る。踏み入ると思いのほか雪は少ない。このところほとんど雨は降っていないからかな。

天気は快晴。時々、壮麗な富士山が見え隠れする。歩き始めて程なく暑くて体温調整のため上着を脱ぐ。空気は、キーンと冷えているが、風もなく暖かく感じる程穏やか。サクサク落ち葉を踏みしめ、倒木を跨ぎ、グングン上って行く。



富士山とグラキヤ

三角点でちょっと休憩した。水分補給と行動食をパクパク。振り向けば、少しモヤっているが、富士五湖・伊豆・箱根・丹沢・御坂・奥秩父と素晴らしい展望だった。そして、何よりも富士山が間近に迫る。うっすら雲がかかり、見え隠れする姿は厳しく美しい。



お汁粉

左下に崖が出現。22年6月、グラキヤの底を歩いた事があった。古（小）富士の地層が表われている場所だと、プラタモリでいっていた。

私は久しぶりの登山でフウフウいいながら必死でついていく。樹林帯を抜け小富士基部で休憩。寒カラスがガーガー鳴いていた。

ここから、サラサラのスコリアの道を一步一歩進む。雪が少なく、せっかく新調したアイゼンは活躍终いだった。

やがて頭上に三角点が見えて来た。見えるが、なかなか着かないものだ。三角点は普通の斜面に岩が積んでいた。何故ここが三角点なのか不思議だった。

G氏の話では、「三角点は、あくまで測量がしやすい場所」という。



三角点

### 小富士を目指す

ここからもうひと踏ん張り、小富士の祠を目指す。ゼーゼー苦しく足が上がらない。重たい足を必死に動かし男性陣について行く。やっと小富士のケルンが見えてきた。雪はほとんど無かった。小さな祠がやや傾いて静かにそこにあった。

「やっと着いた！お久しぶりです」と手を合わせた。左手に雄大な富士山がそびえ、右手に雪をいただく八ヶ岳が見えた。



小富士上り



昼食



小富士山頂

振り向くと山中湖がキラキラ光っていた。空気はキリっと澄み渡り、風は弱くともみると体が冷えていく。急いで上着を羽織った。30分程で昼食を済ませ、体が冷えないうちに下山する。

花はなく、色のない枯れた森、鳴く鳥もいない静かな森。上りは3時間ほど掛かったが、下りは1時間半でサクサク下った。無事に遭難せず車に戻り、富士宮の市長さんに怒られなく済みそうです。お疲れ様でした。